



私の街こまつ



THE KOMATSU CITY COUNCIL NEWS

2026

8.1

NO.222

議会だより

Topic!

令和8年度 補正予算

1億3,521万9千円を可決

Contents

6月定例会	2
市政Q&A	3
常任委員会 審査報告	12
特別委員会 調査報告	14

議決結果	15
議長の活動紹介・ 活動ピックアップ	16



市議会HP



マチイロ

撮影 小松大谷高等学校写真部 2年 いわさき も か 岩崎 萌嘉さん 撮影日 6月22日 撮影場所 那谷寺

6月定例会

会期〈6月8日～6月29日〉

6月8日 開会

市長提出議案

予算案 1件

条例案 3件

その他議案 11件

16日 一般質問 (7人)

17日 一般質問 (6人)

18日 一般質問 (5人)

19日 各常任委員会 (分科会)

22日 特別委員会

25日 予算決算常任委員会

29日 閉会

市長提出追加議案 3件

議員提出議案 2件

※議案等の採決結果 (P15参照)

条例案等をチェック ☒ (P13参照)

市長から提出のあった条例案やその他の議案については、各常任委員会で審議されました。

予算案をチェック ☒ (P12参照)

市長から提案のあった予算案については、予算決算常任委員会で審査されました。

令和8年度6月補正予算

一般会計 補正額 1億3,521万9千円

一般会計の累計

578億1,521万9千円

全会計の累計

1,158億2,891万9千円



小松市イメージキャラクター
カブッキー

議員提出議案をチェック ☒ (賛否はP15参照)

議員から提出された議案のうち意見書については、可決された意見書を、内閣総理大臣をはじめ、関係機関に送付しました。木下議員から議案第5号に対し、反対討論がありました。

議案第5号 自衛官への暴挙発言に対する議員辞職を求める決議

議案第6号 社会全体で全てのケアラーを支援する仕組みの構築を求める意見書

人事案件

固定資産評価審査委員会委員

木村 鉄平 氏 (上小松町) の選任に同意しました。

農業委員会委員

浅井 良子 氏 (南浅井町)

奥田 直人 氏 (佐美町)

木戸西 八郎 氏 (矢崎町)

寺本 芳樹 氏 (瀬領町)

灰田 繁雄 氏 (向本折町)

浅野 由紀 氏 (園町)

川畑 眞智子 氏 (須天町)

辻 和也 氏 (津波倉町)

中村 一秀 氏 (草野町)

松本 康秀 氏 (月津町)

大木 淑子 氏 (白江町)

北川 辰夫 氏 (漆町)

辻 徳和 氏 (向本折町)

西田 清明 氏 (荒木田町)

山本 浩一 氏 (千代町)

の任命に同意しました。

◆物価高対応のデジタル給付

Q こども食育支援事業の目標と、持続可能なシステム基盤構築に向けた既存システム活用の見解は。

A 食事代の補助や家族団らん機会の増加が目的で、申請率9割の達成を目指す。類似事業の受託実績があるシステム事業者を選定し、夏休み期間中の利用開始とする。

Q スマホ買替えが必要な高齢者の負担軽減策や、若手地域人材を活用する学生スマホサポーター導入への見解は。

A 購入補助はないが、出張スマホ教室などのスマホ活用支援を実施している。学生スマホサポーターは様々な課題を整理した上で検討していく。

◆AIの現在地と今後の関わり方

Q 自動運転バス実証実験における接触事故の要因と、安定した運行に向けた今後の安全策は。

A 現在は対象物の認知のみにAIを活用している。事故はステアリングを切る指

示と実際の制御が追従できていないことが原因。今後はシステムが指示したステアリング角度と、実際に切られたステアリング角度の乖離を検知し、接触を防止する機能等を追加し、予測判断にもAIを活用していく。

Q 教員が適正なAIの活用法を身につけるルール整備や、人手不足が懸念されるICTインストラクターの育成等、体制強化はどう進めるか。

A 生成AI利活用ガイドラインを策定し、教員研修を実施する。インストラクターの確保と育成は関係部局と連携し、実効性ある対策を講じる。



生成AIを活用した次世代の学びへ

物価高対応のデジタル給付とAI活用



よしば ぶんご
吉柴 文悟
議員

一括質問



動画でチェック

◆新市民病院建設と先端医療技術・地域連携について

Q 高度医療の充実をどう図っていくか。

A 人材強化に加え、新病院では、迅速かつ効率的に高度医療を提供できる体制を検討していく。

Q 金沢大学附属病院との連携について。

A 高難度手術の対応強化を図るためには、医師の確保が必要となるため、これまで以上に金沢大学附属病院との関係を強化していく。遠隔手術についても、双方の病院の医師の連携強化を進めていく。

Q 高難度の手術ができる中核病院に向けての対応は。

A 血管造影装置を更新予定。新病院では、手術機能の強化や、感染症に対応できる設計としていく。

Q 病院のDXの加速にどう取り組む。

A AIによる看護師の勤務表作成システムなどを導入予定。

Q 職員が働きやすい環境整備を。

A 限られた財源の中でスペースを有効活用し、リフレッシュできる環境と仕組みづくりを検討していく。

Q 市民の命や最前線で働く職員を守る、市長の熱い思いは。

A 南加賀医療圏内の医療機関がそれぞれの役割を明確にし、医療圏一丸となって医療体制を構築することが何よりも重要である。小松市民病院がその中核病院となり、医療圏内の人々は医療圏内でしっかりと守っていくという強い使命感を持って取り組むことで、結果として小松市民の健康を守ることにつながるものと確信している。

◆下水道管路の老朽化対策

Q 埼玉県八潮市の道路陥没事故を受けての本市の調査結果に対し、今後の対応は。

A 緊急度1及び空洞箇所は、昨年度内に修繕完了。緊急度2の箇所は、今年度中に修繕を完了予定。今後も、計画的な点検調査を継続し、修繕や改築工事を実施することで、管路の健全化を図り、事故の防止に努めていく。

新市民病院は南加賀の絶対的な中核病院だ！



かわさき じゅんじ
川崎 順次
議員

一括質問



動画でチェック

子どもの命と尊厳を守る教育について



さいとう かずみ
齋藤 和美
議員

一括質問



動画でチェック

◆不登校児童・生徒への支援について

Q 出席扱い・成績評価について。

A 学校と教育委員会が連携をとって出席判断をしている。また、個々の学習状況を踏まえ、数値による評価ではなく、文章の記述により成績評価を行っている。

Q 居場所を必要としている子ども達への寄り添いや環境の整備が重要ではないか。

A 学校には通学できるものの教室に入ることが難しい児童生徒については、相談室等で受け入れ、支援を行っている。

学校に行けない児童生徒については、家から出て様々な関わりを持とうと、ふれあい教室に通っている。

家から出られない児童生徒については、相談員が訪問し、支援を行っている。

学びの多様化学校は、学習意欲はあるものの登校しづらい児童生徒が自分に合った学習内容やペースで学習を進めることで自信を取り戻し、将来、社会の一員として活躍していく力を身につける場であると考えている。

◆学校現場における性暴力などの被害防止について

Q 性暴力から守るためには予防を重視した取組が必要ではないか。

A 教職員の事故や犯罪防止の注意喚起を行っている。個人的なSNSのやり取り禁止、個人携帯での動画等の撮影禁止などを繰り返し伝え、犯罪防止に努めている。

Q 自分の身体を守る教育について。

A 小学校低学年次からプライベートゾーンの大切さ、嫌なことを断る、その場から逃げるなどの指導をしている。中学年次からは、男女の体の違いや心の発達など、性情報への対処などを学んでいる。

Q こども性暴力防止法について。

A 法施行に先立ち、教職員採用時に性犯罪歴の確認を実施している。児童生徒が安心・安全に学校生活が送れることが大切であり、教職員の法の理解、倫理観の醸成に努め、保護者も安心できるよう、学校の取組を情報伝達していく。

誰もが暮らし続けられる生涯安心のこまつについて



はしもと よねこ
橋本 米子
議員

一括質問



動画でチェック

◆小松市地域防災計画改定について

Q これまでの避難所避難者数22,000人を16,466人に想定したのはなぜか。

A 自宅にとどまる方や車中で避難生活を送る方など、避難所以外で避難する方がいるため。

Q 公民館等の施設が届出避難所として開設可能になるが、運営方法や指定避難所との関わりについて。

A 地域の自主防災組織または町内会を想定している。有事の際には、指定避難所の備蓄品を活用する。

Q 避難者へのトイレ確保について。

A 発災3日目までは避難者75人当たり1基、発災4日目以降は50人当たり1基、発災7日目以降は20人当たり1基のトイレを確保する。

◆猛暑から市民の命と健康を守れ

Q 生活保護世帯でのエアコン設置の方法と状況把握について。

A 平成30年度から一時扶助費の支給対象にエアコンが追加されており、職員が訪問等を通じて設置状況の把握に努めている。

Q 高齢者世帯への声かけはどうか。

A 民生委員や地域福祉推進員を中心に、定期的な訪問や見守り活動を行っている。

Q 低所得世帯を対象にしたエアコン購入支援が必要と思う。

A クーリングシェルトアの設置拡大や的確な注意喚起、予防啓発などを通じて、熱中症予防に努める。

◆加齢性難聴者の社会参加について

Q 聞こえの大切さの周知・啓発の取組の状況はどうか。また、検診での聴力検査項目の設定はできないか。

A 健康イベントやいきいきサロンなどの機会を活用し、広く周知を図っていく。また、人間ドック及び脳ドックにおいて聴力検査を実施している。

Q 補聴器購入費助成の検討を求める。

A 先行自治体の運用状況及び国・県の動向を把握するとともに、制度設計、財源確保、導入効果及び必要性について検討する。



補聴器購入費助成の検討を求めたい